

おおさか元気広場通信

令和5年11月17日

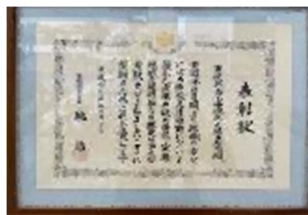
令和5年11月17日金曜日、吹田市立東佐井寺小学校にて、太陽の広場（放課後こども教室）とたんぼぼ学級（留守家庭児童育成室〈放課後児童クラブ〉）を対象とした放課後防災避難訓練が学校と連携して実施されました。

地域に支えられて

東佐井寺小学校のある佐井寺地区は、以前から防災に対する住民の意識が高く、地域の防災訓練や防災教育、集合住宅ごとの防災倉庫の整備などにも積極的に取り組まれている地域であり、校長先生は「本校は吹田市の中でも特に防災に力を入れている学校です。」また、

「太陽の広場が毎日実施されるからこそ、地域と学校の距離が近く、連携が図れています。また、月に一回、連絡会を実施し、情報共有を行っているので活動をスムーズに実施できています。」と話されていました。

このような地域と学校の連携・協働の成果により、平成27年には「優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」を受賞されました。放課後防災避難訓練は、地域と学校の日頃からの密な連携により実施されています。



昇降口に飾られている表彰状

放課後のおたのしみ

授業が終わると、参加する児童たちは、下足ホールに集まりランドセルを置いてから受付をします。図書室で学習をしてから「やっとなる！」と元気に運動場に駆け出し、サッカーやドッジボール、遊具遊びなどそれぞれにお気に入りの遊びを始めます。運動場では、子どもたちの活動を見守るフレンド(安全管理員)さんと学童指導員さんが約100名の児童の活動を見守って下さっています。

また校舎内でも本を読んだり、室内遊びを始める児童もいます。



寒さに負けず活発に遊ぶ児童の様子

防災避難訓練

こうした日常の活動のさなか、避難訓練の予定の時刻になると、校長先生から「大きな地震が起きました。教室にいる人は机の下。運動場にいる人は校舎から離れ、しゃがんで身を守りましょう。」と放送が校内に流れました。実は今回の避難訓練の内容は、事前に児童たちには知らされていなかったのです。



急いで運動場に集まる児童の様子

予期せぬ事態に戸惑い気味の児童もいましたが、運動場の児童たちはフレンドさんの指示に従い、ボールなどの遊び道具を置いて、その場で身を屈めて、揺れが収まるのを待ちました。その後「揺れが収まりました。」と放送が入り、校舎内にいる児童たちも運動場に集まり、点呼による安否確認がされました。放課後の急な避難訓練にもかかわらず、児童一人ひとりが慌てることなく、真剣に落ち着いて行動し、迅速に避難を完了させることができたことが印象的でした。

育まれる防災意識

訓練の最後に、校長先生から「いつ地震が起こるかはわかりません。自分で判断して行動し、自分の命は自分で守れるようにしましょう。」とお話がありました。真剣なまなざしで話を聞く様子や訓練時の適切な避難行動を見ていると、児童一人ひとりに防災の意識が育まれ、根付いているように感じました。

地域の方々と学校と留守家庭児童育成室とが連携・協働することで、地域全体の防災意識が高まるだけでなく、世代を超えて「安心・安全」への思いが引き継がれていることを教えてくれた防災避難訓練の取り組みでした。



運動場に集合し、安否確認を行う様子